

ミーソン聖域

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。

出典検索[?]: "ミーソン聖域" (https://www.google.co.jp/search?hl=ja&as_eq=wikipedia&q=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22&num=50) - ニュース (<https://www.google.co.jp/search?hl=ja&q=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22&tbm=nws>)・書籍 (<https://www.google.co.jp/search?hl=ja&tbs=bks:1&q=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22>)・スカラー (<https://scholar.google.co.jp/scholar?num=100&hl=ja&q=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22>)・CiNii ([https://ci.nii.ac.jp/opensearch/search?lang=ja&q=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22&r](https://ci.nii.ac.jp/opensearch/search?lang=ja&q=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22&range=2&count=200&sortorder=1&type=0)ange=2&count=200&sortorder=1&type=0)・J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/result/global/-char/ja?globalSearchKey=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22>)・NDL (https://iss.ndl.go.jp/books?op_id=1&locale=ja&any=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22&display=&ar=4e1f)・dlib.jp (<https://dlib.jp/?q=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22>)・ジャパンサーチ (<https://jpsearch.go.jp/csearch/jps-cross?csid=jps-cross&keyword=%22%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%83%B3%E8%81%96%E5%9F%9F%22>)・TWL (<https://wikipedialibrary.wmflabs.org/partners/>) (2019年9月)

ミーソン聖域（ミーソンせいいき、ベトナム語: Thánh địa Mỹ Sơn / 聖地美山）は、ベトナム中部クアンナム省にある古代チャンパ王国の聖なる遺跡。1999年、ユネスコの**世界遺産**（**世界文化遺産**）に登録された。

概要

ミーソン聖域は、**サンスクリット**による正式名称を『**シュリーシャーナバドレーシュヴァラ**』といい、チャンパ王国の宗教（**ヒンドゥー教**シヴァ派）の聖域であり、**聖山マハーパルヴァタ**を望む**クアンナム省ズイスエン県**ミーソン圏谷にある。

ミーソンには、レンガ作りのチャンパ塔など**7世紀**から**13世紀**にかけての遺構が残っているが、ベトナム戦争当時の爆撃によってかなり破壊されている。遺跡の近くを大河**トゥボン川**が流れており、川の女神を祀る秋盆夫人

世界遺産

ミーソン聖域
(ベトナム)



ミーソンの遺跡

英名	My Son Sanctuary
仏名	Sanctuaire de Mi-sôn
登録区分	文化遺産

祠とサンスクリット碑文がある。トゥボン川の中流には、王都チャキエウ遺跡があり、河口には近世に日本人町が栄えた港町ホイアンがある。

チャンパ王国は、サンスクリットによる正式名称をチャンパープラ / チャンパーナガラといい、シュリークシェートラ（ビルマ）、ドヴァーラヴァティー（タイ）、カーンボージャ（カンボジア）、シュリーヴィジャヤ（インドネシア）などと同じ東南アジアにおける中世インド化国家である。

チャンパ王国は、今日のベトナム中部沿海及び中部高原を支配した。その支配民族は不明であるが、遺跡からはサンスクリット碑文と共にマレー系（オーストロネシア語族西インドネシア語派）に属する古チャム語碑文が出土しており、チャンパ人（古チャム人）は現在のチャム族の祖先であると考えられる。ミーソンの現在の住民はモン・クメール系のベト族（キン族）であるが、本来はモン・クメール系のカトゥ族の勢力範囲であったことから、カトゥ族の祖先（古カトゥ人）もまた古チャム人と共に、チャンパ王国の構成員であったと考えられる。

建造物は、グプタ様式や先アンコール期の影響が見られる。建造物には、セメントや漆喰などの接着剤を使った形跡が無く、チャンパ人の当時の技術力の高さを物語っている。チャム族の伝承によれば、チャンパの彫刻工人・建塔工人の多くは、徴用労働者として動員された山岳民族である。周囲に住む山岳民族カトゥ族は、現在でも有名な木彫職人を輩出している。

ミーソン聖域は、**20世紀初頭**にフランス人によって発見され、フランス極東学院 (EFEO) のパルマンチュ、クレイらにより数次にわたり修復・補強がなされた。その一方、フランス領インドシナ統治時代に盗掘を受け、美術品の多くが失われた。また、ベトナム戦争で南ベトナム解放民族戦線アジト掃討のため、アメリカ空軍・**B-52**の爆撃を受け、大半の遺跡が破壊された。

ベトナム戦争後は、ポーランド文化財保護アトリエ (PKZ) のカジミエシュ・クヴィアトコフスキ、ベトナム文化情報省文化財修復会社のホアン・ダオ・キンらにより補強がなされ、石像の一部がダナン市のチャム彫刻博物館に移送された。日本のトヨタ財団、アメリカ合衆国のワールドモニュメントウォッチ財団による保護助成が行われ、現在はイタリア隊が調査を行っている。また**2005年3月**には、日本の国際協力機構の技術協力により、ミーソン遺跡展示館が完成した。

アクセス

旅行会社のツアーで訪れるのが一般的。個人の場合は、ホイアンよりシンカフェやキムカフェなどの旅行会社が、日帰りツアーを催行している。

日本語ガイド付きのツアーは、TNKトラベルなどの旅行会社が催行。

登録基準

この世界遺産は世界遺産登録基準のうち、以下の条件を満たし、登録された（以下の基準は世界遺産センター公表の登録基準 (<https://whc.unesco.org/en/criteria>)からの翻訳、引用である）。

登録基準	(2)(3)
登録年	1999年
公式サイト	世界遺産センター (https://whc.unesco.org/en/list/949/) （英語）

地図



使用方法・表示

- (2) ある期間を通じてまたはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。
- (3) 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠。

関連項目

- [ホイアン](#) - 同じくクアンナム省にある世界遺産。
- [ベトナムの世界遺産](#)
- [世界遺産の一覧 \(アジア\)](#)

外部リンク

- [ミーソン遺跡 \(https://trippers.info/vietnam/hoian/0001\)](https://trippers.info/vietnam/hoian/0001)
- [ベトナムレポート \(http://www2.ttcn.ne.jp/~taktplus/4betorepomyson.html\)](http://www2.ttcn.ne.jp/~taktplus/4betorepomyson.html) - 豊富な画像がある日本語サイト

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=ミーソン聖域&oldid=83561196>」から取得